これでも責任者か
座込みで保安担当者追及

炭鉱災害はいま後から後からとつづいている。いつ自分の上にふりかかるかわからないのだ。こういうとき、宮浦支部では去る七月一日、乙方（三番方）が保安問題でその不満を爆発させた。この日三番方であつた乙方は、保安要員をのぞいて全員が坑りこみ、翌日の一番方も二時間ほどおくれて入坑する状態にまで発展した。問題は保安担当者の不適格追及からおこつたのだが、体をはつて仕事をする炭鉱労働者には、生命の問題でもある。職場闘争は未解決のまま三鉱労組の闘いとしてひろがつている。

不適格だ教育させろ

この座込みは突発的におこつたものではなかつた。乙方の現場安全委員会で問題となつていた丸山運搬係員の件で、組合員の怒りが爆発したものである。

丸山係員は運搬係として保安の責任をもちながら、保安の責任感がうすく、保安担当者としては適格でない。保安教育をさせろという声が職場に高まり、要求してまとまつたものであつた。

この要求は六月十七日第二分会（乙方）の現場安全委員会で係長に提案理由を説明された。係長はこの交渉で「私としては返事ができません」と拒否し、結論はもちこされた。

十九日の小委員会でふたたび交渉はもたれた。この席上、係長は〝平常どおり運搬係員として保安上の責任をもたせて配役し、係長からほかの係員を一名つけて行動させる〟という坑内教育案を提示してきた。分会ではあくまでも一週間の坑外教育を主張した。

六月二十八日、分会は問題を早く解決させるために「保安上の責任作業の指示権をもたせず運搬係員の枠外として坑内で一週間教育する」という案を出して、平和的に解決しようとしたが、係長は前進した案はだせませんと前進につつぱなしたのである。

無責任な担当者

丸山係員に一週間の保安教育をさせなければならないという裏にはつぎのようなかずかずがある。

(1)六月八日公休出勤した彼は、三十五尺部内で作業指示をしたあと、本線捲立に行くといつてそのどの行動は、当番係長にも現場の作業員にも連絡せず本線にでた、そのご二名の負傷者がでたが係員の行先がわからぬため人車の運行ができず負傷者を二十分ほど坑内にまたせた。

(2)六月十四日夜、運搬工が負傷したが、彼はこの程度なら背負つて昇坑できるといつた。現場安全委員は傷が深いとみて担架昇坑を主張したが口論となつた。結果的には担架であげたが、負傷者にたいする適切な判断と処置をとらなかつた。

(3)六月九日、運搬工の欠員補充として繰込まれた作業員が「斜坑は人車で行きますか、歩いて行きますか」とたずねたところ、「どうらでもよい」とこたえ歩かせた。当然人車に乗せなければならない斜坑を歩かせ規律違反をした。

労働会館完成　竣工をいそいでいた荒尾労働会館はこのほどめでたく完成、いよいよ利用の運びとなつた。会館は大会議室、準会議室、日本間、洋間、食堂などがあるが、荒地評、労働金庫も会館内にできた、なお宿泊施設もあり（日本間）洋間とも利用することができる。

皆が出演者だ!!
地域文化に八ミリ活躍

八ミリブームが世間で騒がれているが、この八ミリ撮影機で地域内の行事はもちろんのこと、平和問題をテーマとして撮影、映写し、八ミリのもつ独自の効力をフルに発揮して地域の文化教宣活動に大いに貢献しているのが、ここ緑ガ丘楓町の坂口次男氏を中心とするグループである。

このグループの中心になつているのは坂口氏。撮影機も映写機もテープコーダも彼のものだ。八ミリに熱中しだしたのは昨年の五月、いくらも作品をつくらないうちに考えたのは〝どうせつくるなら地域のためになるようなものを〟にかわつていつた。

いらい、地域のいろんな行事、主婦会の行事など、地域のできごとがつぎつぎと彼のフイルムに記録されていつたのである。

いままで見た映画ではスクリーンにでてくる人物は、自分たちとは遠くかけはなれた他人ばかりだつたが、ここでは知つている人ばかりだ。地域では老人も男も女も子供も、いまでは映写会があると大喜びである。盆踊りも分会の要望でフイルムにおさめられた。とこうがいままで撮つたものを全部見てみると、記録のなかに平和の移りかわりがニジミでていた。坂口氏は、この平和の生活をながつづきさせるためにはどうすればよいか、平和であればこと戦争をおこさないように考えるべきだと考えつき、一本にまとめようと決心した。

〝団〟仲間〟の応援や地域分会、主婦会の人たちの応援で撮影がはじまつた。これには製作費としてて約一万円かかつたが、三千七百円は地域の人たちからカンパが集められた。残りは自バラである。この映画はしかし傑作と云り地域では非常な好評でむかえられ、他の分会からも借用を申込んでいるありさまである。

いままですでに千六百フイートが記録されている。こんどのメーデー映画をつくるときには、編集、録音、音楽とグループが集つて酒飲つてくれた。納崎、浜村松本、松田、秋田、檜木の各氏である。

映画をつくることは楽しいことばかりではない。画面とテープに吹込んだ録音とが合わないために、徹夜したことさえあつた苦しい道をたどつてきた。みんな真剣そのものであつた。はじめは、地域では映るかどうかみんなが疑問さえもつていたが、いまでは協力を惜しまぬほどにかわつており、大きな期待をいだいている。八ミリに熱中していら坂口氏は好きな酒もやめて、情熱をかたむけているが、こんごとも〝働く人の生き生きした姿を未来に残していきたい〟と抱負を述べている。

（写真は夜間撮影の一場面）

職制支配がねらいだ

交渉はついに決裂状態となつたので、七月一日（三番方）の繰込場で真相を組合員に報告したところ係長と係員から説明をきこうということになつた。係長と丸山係員は繰込場に姿をみせたが、丸山係員は一言の発言もしない。係長は「時間がすぎておりますので繰込みをおこないます」と三回もくり返したため、組合員は故意に問題の本質をボカすような係長の発言に怒り、自然発生的に坂りこみに突入したのである。

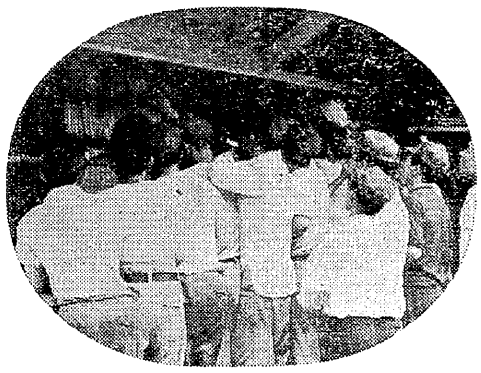
二日午前二時、戦術委員会を招集して対策を検討した結果、二日午前七時すぎ坂りこみをといて、執行部の交渉にうつされた。この事件のうらにひそむものは、さいきんジワジワと各職場であらわれてきているように職制支配を復活させ、職場闘争をおさえつけようとする会社の態度にほかならない。闘いはこんご三鉱労組の闘いとして強力な闘争を展開するため、体制をかためなければならない段階に突入している。

すでに二日の中央執行委員会では三鉱労組の闘争としてとりあげることと、炭労から保安闘争として三権の移譲をうけることをきめた。また四日に団交申入れを会社におこなつた。

団交開催まえにもう一度話合いたいとの会社申入れで折衝にはいり五、六日にひらく委員会と七日から開催される機械化交渉の圧力を背景に激突をつづけている。

図書館店開き
七月一日から製作支部

いま支部で図書館を運営しているのはヤマの三支部であるが、去る七月一日より三作支部の図書館があたらしく店びらきした。



蔵書約千冊、利用時間は昼休みの一時間と、退勤時の四時から五時までの一時間。新図書館は通用門の守衛詰所の半分を仕切つた部屋である。

昼休みになると、まちかねたように利用者がひしめき、読書欲はなかなか旺盛なものである。係はテンテコまいで受付けているが、こんご利用を契機にして図書の充実がますますはかられるものと思われる。【写真】昼休みとなれば、図書館の前にどつとつめかける。

支部では図書館実現のため、着々と準備をしていたが、このほどすべてが完了し実現のはこびとなつたものである。

うたごえ活動家会議
19・20日に大牟田で開く

炭労新聞でも発表されてあつたように「日本のうたごえ」実行委員会は、うたごえ運動におけるはじめてのこころみとして平和月間中に、全国各地で「うたごえ活動家会議」をひらく。

うたごえ運動とは何か、その現状はどうかといつた問題が全国的に再検討され、こんごのうたごえ運動の方向をしめすものとして成果を期待されている。

九州では、はじめは福岡でひらくことを予定されていたが、本年度の「九州のうたごえ祭典」を炭労を中心とした大牟田で十月に開催しようという、全九州合唱団会議の決議があり、その前段階の態勢をととのえる意味で、全九州うたごえ活動家会議も大牟田でひらくことになつた。

主催者の全九州合唱団会議では、ひろく全九州のうたごえ活動家、一般サークル員、創作活動家、組合教宣部などに参加を呼びかけている。内容はつぎのとおり。

一、日時　7月19日午後5時より7月20日午後4時より

一、会場　大牟田労働会館

一、討議内容

イ、九州におけるうたごえ運動の現状と問題点。

ロ、日本のうたごえ総会の決議

ハ、音楽と社会。

なお、この会議に中央よりつぎの三氏が講師として参加する。

井上頼豊氏（中央合唱団指揮者…関鑑子氏代理、チエロリスト）

今藤勝成氏（中央音楽センター幹任組織部長）

永井氏（全国鉄サークル協議会）

新築社宅810戸
各支部割当きまる

平野大谷社宅の移築分三〇戸の完成につづいて、三十二年下期分の新築社宅二〇戸（七夕売店付近）が近くできあがります。

各支部ともいま多数の社宅入居申込があり、執行部では一日もはやく入居者をきめなければなりませんが、昭和三十二年十二月の福利団交の未協定されました三十三年度の六〇戸をふくめ、八〇戸の配分をいろいろ討議した結果、つぎのように決定しました。

配分については在籍数、在籍にたいする現在社宅の不足数、申込者数による必要数、各支部均等割当数などをかんがえて決定しています。

宮浦＝十五　四山＝十一　三川＝十七　本所＝十四　港務＝十二

製作＝十一（計＝八十）

なお、この社宅は産業労働者用住宅資金で建てられていますから、県の方で検収その他について管理することになつています。それで下屋の建増しなどの附帯工事は厳に禁止するように要望されています。

三井病院看護婦募集

三井病院では結婚などで退職した看護婦の欠員補充、長欠者の補充として、新しく五名を次のように採用することになつた。

看護婦募集要項

1、募集人員　5名

2、応募資格

(1)看護婦又は准看護婦の免許証を有する者

(2)年令満二十五才未満にして未婚の者

(3)居住地より通勤可能な者

3、申込方法

(1)志願者は採用願書に(2)の書類を添え「労働諮務員係」又は「病院事務課」に申込むこと

(2)申込の提出書類

㋑履歴書　㋺戸籍謄本　㋩家族調書　㋥免許証（申込の際提示のこと）　㋭縁故証明書　㋬写真（名刺型）

※縁故証明書は三池炭鉱従業者に縁故ある者に限り提出すること、但し縁故関係は三親等までとする。

※現在他所病院その他に勤務中の者は勤務先責任者の了承証明書を提出すること

(3)申込受付期間

自　七月七日―至七月十二日　毎日午前八時より午後四時まで

4、詮衡方法

(1)第一次詮衡

普通学科（国語、数学、社会）及び専門学科につき筆記試験を実施する

(2)第二次詮衡

面接試問及び身体検査を実施する

(3)詮衡日程及び場所

㋑学科試験　七月十三日（日）午前九時　於大牟田市医師会館（市内不知火町三丁目）

㋺身体検査　七月十六日（水）午前九時　於三井天領病院内

㋩面　接　七月十六日（水）午後一時　於本社会議室

※合格者には直接本人宛通知する

ポンプ増設
新港の排水増まる

ことしは予想外の空梅雨で農作にはやくも赤信号をだしているが、大雨のだびにヒヤヒヤする新港社宅ではいまのうちにと水害にそなえて工事をいそいでいる。

新港社宅は低地であり、それにくわえて排水溝がせまいため、大雨となれば例外なく浸水のうき目をみている。昨年の大雨でも道路は没してしまい、ほとんど床下浸水の被害をうけた。真昼にむかうときだけに、浸水後の伝染病はえりとばかりに飛びつきやすいわけである。

地域分会でもたびたび要求を出し排水溝の拡張、家の地上げなどおこなわれてきたが、こんど現在社宅東側にある排水ポンプを増設、浸水を防ぐことになつた。

いままでの排水ポンプは20馬力、40馬力の二台であつたが、増設されたポンプは70馬力の強力なものである。これと同時にポンプ小屋へ通つている大溝、バレーコートの中溝をそれぞれ拡張することになつた。

勤評、反対決議
銀水小PTAで

銀水小学校PTAではこのほど勤務評定反対を決議、去る六月十日に会長中川末義（本所）副会長薬マリ子（三瀬主婦）書記田中芳雄（宮浦）の三氏が県、市教育委員会および連合PTAに申入書を手交した。

銀水小PTAでは去る五月十一日に総会をひらいたが、席上勤務評定反対の緊急動議が提出された。このため各部落ごとに集約がおこなわれていたものだが、六月一日全委員会で満場一致「勤評反対」の決議をおこなつたのである。

入院者を見舞
古本などもカンパ

四山主婦会では去る六月三十日、組合員の入院患者を各病院に見舞つた。

主婦会では入院患者見舞のため古本のカンパをおこなつてきたが、このほど集約したので、各人が三十円を拠出して饅頭を購入、古本とともに入院患者を見舞つた。

チケット切替
7月15日から新券で

いま使用しております連絡チケットが、七月で期間満了しますので、新券と切替えることになりました。そのため、つぎのことをお知らせいたします。

1、切替の日　七月十五日

2、切替のやり方については支部委員会で報告します。

3、七月七日より七月十四日まで準備のため販売を一時停止します。

4、七月十五日より新券を利用し購入して下さい。

（厚生部）